

18 江ヶ崎 地区

1. 地区概況

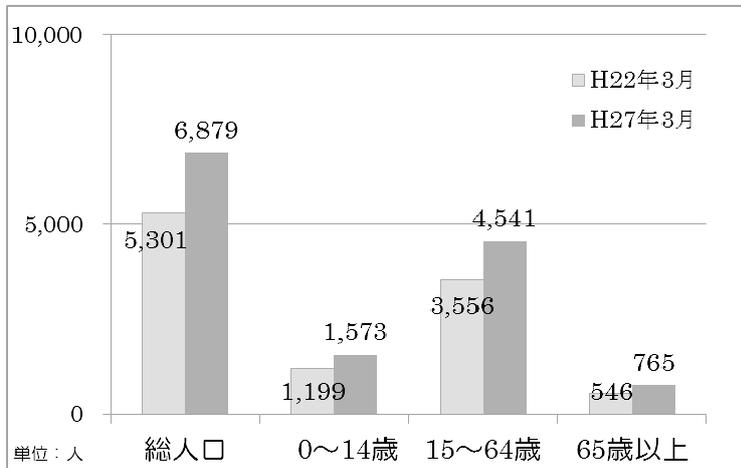
鶴見川沿いから川崎市方面へかけて広がる平坦な地形です。

区内を走るバスは、川崎駅発着が多く、生活圏域は、ほとんど川崎駅方面です。近年は、工場や旧国鉄新鶴見操車場、田畑の跡地にマンションや新築戸建住宅が建設され、子育て世代家族が多く引っ越してきています。



2. 江ヶ崎地区の人口（年齢区分別）

	H22年3月 (年齢区分別比率)	H27年3月 (年齢区分別比率)	【参考】H27年3月 (鶴見区全体の年齢区分別比率)
総人口	5,301人 (100.0%)	6,879人 (100.0%)	(100.0%)
0～14歳	1,199人 (22.6%)	1,573人 (22.9%)	(13.3%)
15～64歳	3,556人 (67.1%)	4,541人 (66.0%)	(67.0%)
65歳以上	546人 (10.3%)	765人 (11.1%)	(19.7%)



- 5年前と比べると、0～14歳、15～64歳、65歳以上の人口、総人口すべてにおいて増加しています。
- 特に若い世代の人口が増えています。
- 高齢化率は区内で最も低いです。

※地区別人口については、集計上の誤差があり、実態と一致しない場合があります。 出典「横浜市統計ポータルサイト」

3. 第2期計画

目標

「支えあう・助けあう町 江ヶ崎」

取組内容

江ヶ崎・あいねっと推進協議会などの開催 災害に強い町づくり 子育て支援 情報の発信

4. 第2期計画の主な取組内容（22年度～27年度）

あいさつ運動

元気なあいさつが飛び交いました。

顔の見える関係づくりのため、地域全体で「あいさつ運動」を推進しています。毎年4月の新鶴見小学校、矢向中学校の入学式では、たくさんの住民が校門付近に並び、新入生や保護者を出迎え、「おはようございます」「おめでとうございます」と声かけを行っています。



江ヶ崎ミステリーツアー

町の魅力ポイント4か所をまわる5コースを設定。グループに分かれて、グループごとに指令書の指示でまわりました。こどもたちは『わたしの町の魅力』の冊子を見ながら、指令書をヒントに魅力ポイントを探し、改めて、自分たちの町を知る機会となりました。



町の歴史を聞きます！

江ヶ崎町総合防災訓練

乳幼児を抱える若い世代から、高齢者、障がいのある方まで、約500人も住民が参加し、要援護者救出訓練や応急給水訓練、下水道直結式仮設トイレ設置訓練など、実践的訓練を実施しています。参加者全員が真剣に取り組み、防災意識の向上と住民同士の交流を深めるよい機会となっています。



【中学生も多数参加】



【救援協力者】



【応急給水訓練】



安否確認ができた家の玄関に「黄色いリボン」を結びました。

「黄色いリボン」とは・・・

災害時に各戸が、道路から見えやすい場所に『黄色いリボン』を掲げ、「わが家は大丈夫だから、ほかの人を助けて」というサインにします。迅速な救援活動を目的としています。防災に対する意識も高めていきます。

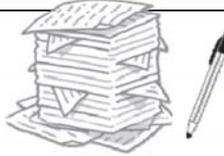
新鶴見子育て広場

毎月1回「新鶴見子育て広場」を企画・運営しています。手作り感のある、あたたかい就園前親子のためのサロンで、子育て中のお母さんたちの交流の場となっています。

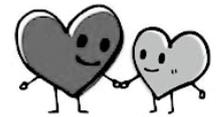
5. 第3期計画策定に向けて

【計画策定に向けたプロセス】



時期	内容
H26.12月	<p>H26年度第4回江ヶ崎あいねっと推進協議会 地域のニーズ把握方法、実施時期、アンケートの項目等について検討。</p>
同月	<p>アンケート項目決定</p>
H27.1～3月	<p>地域ニーズ把握のためアンケート実施 ＜実施方法＞ アンケート配布：班長、役員、回覧版</p> 
H27.4～6月	<p>アンケート結果の集計、取りまとめ ◆アンケートから見てきたキーワード ・子どもの居場所の充実 ・世代の交流 ・新住民が交流しやすい環境 ・次の担い手</p> 
H27.7月	<p>H27年度第2回江ヶ崎あいねっと推進協議会 アンケート結果をもとに現状・課題の共有と今後の方向性についてグループワークを実施。 ◆グループワークでの意見 場所や交流機会については既存のものを整理し、もっと活用していきたいという意見が多く聞かれました。 人材育成については、できることから少しずつ多くの地域の人に協力してもらい、町の仕事について知ってもらうところから始めると良いか、という前向きな意見が聞かれました。</p> 
H27.9月	<p>H27年度第3回江ヶ崎あいねっと推進協議会 グループワークでの意見をもとに、第3期江ヶ崎地区計画の目標とキャッチフレーズを作成。江ヶ崎町がさらに住みよい町になるよう、各々の立場から様々な意見を出し合ったことで、活発な話し合いとなりました。</p> 

6. 第3期計画策定（28年度～32年度）



支えあう・助けあう町 江ヶ崎

目標1 子どもが健全に過ごせる場づくり

■現状の良いところ・課題

- ・中学生もサマーフェスタでの出店の手伝いなど楽しんで参加している。
- ・気軽に出入りができる子育ての場所や小学生の居場所があると良い。

■5年間の具体的な取組

- ◎数が増えてきた学齢期の児童・生徒への働きかけを充実させ、地域全体で育てる。
- ◎子育て中の親子が出会え、知り合える場(サロン)づくり。
- ◎若い世代のつながりを強め、活動につなげる。
- ◎中学生を主体に地域活動のなかで役割を担ってもらう場面をつくる。



目標2 世代を超えた住民間の交流

■現状の良いところ・課題

- ・サマーフェスタを始め運動会・もちつき大会等交流できる行事が多くある。
- ・コミュニティハウスとマンションで開催している高齢者サロンの参加者を増やしたい。

■5年間の具体的な取組

- ◎子ども向け行事を通し親の世代の交流と参加につなげる。またPTAに協力を求める。
- ◎土日などを利用した行事を通して、新しい方や若い人の参加と活動を促す。
- ◎年齢に関係なく、誰でもがいつでも集まれるようなサロンづくり。



目標3 誰もが参加しやすい環境・見守り

■現状の良いところ・課題

- ・マンションの住民同士がなかなか知り合えず、交流を望まない人もいる。その一方で交流を望む人もいる。
- ・人材は豊かで、お祭りなど手伝うという人はいるが、比較的若い男性の地域活動への参加が少なく、中心になってくれる人はなかなかいない。

■5年間の具体的な取組

- ◎行事をきっかけに挨拶し合い、顔見知りになって、次の行事を案内するなど交流につなげる。
- ◎引き続きイベント情報を発信するなど町会中心に働きかけ、継続して参加を促す。
- ◎あいさつ運動等を通して顔見知りの輪をつくり、さらに交流を広げる。

